

躍進誓う農と輝の大地

みのり ひかり

3月1日から20日までの20日間、平成18年市議会第1回定例会が開かれました。田村正彦市長は「新しい時代の一步を踏み出す記念すべき年です。協働と躍進を基本とした郷土づくりに着実に取り組む考えです」と決意を示しました。ここでは、施政方針と予算の主な内容を紹介いたします。（7ページまで）



な展開を図るよう努めました。
今後とも「市民と行政との協働によるまちづくり」を基本理念として、すべての世代が次世代に夢をつなげるまちづくり、誰もが住み続けたいと思う魅力あるまちづくりを、地道に力強く推進していきます。

自然と共生する、快適な住環境のまちづくり

総合公共交通システムを検討

道路整備事業は、市道日影山蟹沢線など7路線の改良舗装工事を行います。市道松尾線、有矢野線で路盤改良舗装工事を行うほか、矢神西線など2路線の拡幅改良舗装工事を行います。軽舗装工事は緊急・利用状況などを踏まえながら実施します。

継続される予定です。
都市計画事業では、都市計画の基本理念に基づき、人口密集地を対象に都市計画区域の見直し、西根バイパス開通を踏まえた、新たな計画の策定に取り組みたいと考えています。汚水処理事業は、旧西根町が認定を受けている地域再生計画に、松尾・安代両地域の浄化槽事業を追加し、施設整備を推進します。

公共下水道事業は、西根浄化センターの処理槽増設の実施設計を行います。新年度の管渠布設工事は、主に



新しい郷土づくりのスタート 台に立った八幡平市。本格的なまちづくりが新年度から始まります

昨年9月、旧西根町・旧松尾村・旧安代町は、新しい郷土づくりのスタート台に立ちました。本年度は八幡平市の礎を築き、将来、子孫が豊かな自然と互いの助け合いの心の中で、さらに発展するための大切な年です。これからさらに力強い、魅力のある、地方分権と協働のまちとして発展することを希求し、合併の効果を発揮するとともに、厳しくとも八幡平市に住んで良かったといえるまちづくりのために全力を尽くして取り組みます。

市の将来像「農と輝の大地」の実現を目標とした、新市建設計画の着実な実行と行財政改革を実行し、自己決定、自己責任の下、主体的な自治体として、市民の皆さまに説明責任を果たせる体制の構築に努めます。
さて、合併後、本市の初めての本格予算となる平成18年度八幡平市当初予算案を編成しました。一般会計総額を152億6220万円とし、前年度対比は旧3町村の当初予算ベースで、1.2%の減額となりました。企業

市役所周辺の整備を実施します。安代処理区は、19年の利用開始に向けて、荒屋新町と五日市両地区の管渠整備に取り組みます。安代浄化センターの水処理施設の整備は県代行事業で実施しているところです。

農業集落排水事業は「田頭・平笠地区」が事業採択となり、6カ年事業で整備します。「平笠・寺田南地区」「北寄木地区」は引き続き工事に取り組みます。利用開始済みの7処理施設と松尾地域の集合浄化槽4施設は、接続率の向上に努め、農業用排水路や河川などの水質保全を図るなど、適切な維持管理に努めます。

浄化槽事業は、18年度から安代地域に市が設置・管理を行う方式の、浄化槽整備推進事業が決定しています。汚水処理整備の着実な進展と今後の維持管理の適正化という面からも加入促進に鋭意取り組みます。

水道事業は、水の安定供給を図るため、配水管拡張、老朽管更新、連結管整備事業を実施し、道路改良工事や下水道工事に伴う布設工事にも適正に対応します。経営面では、荒屋新町地区を重点に水道への加入促進を図り、健全経営に努めます。

市営住宅は、24団地、392戸を管理し、入居率は96%と高い利用者で推移しています。一部地域で入居希望者が多いことから、将来を見据えた検討が必要となっています。

公共交通は、高齢化の進行など時代の背景を踏まえ、誰もが安心して

快適に移動できるよう、患者輸送バス、スクールバスなどを有効活用し、国の施策の導入を図るなど、総合的な公共交通システムの構築について検討します。路線バスの維持、廃止代替バス路線運行への助成も引き続き実施します。子育て支援の一環として、公共交通機関を利用して高校などへ通学する生徒に、通学定期購入費の助成をします。

除雪は、積雪量や地域の実情に応じて効率的な対応に努め、市民の日常生活に支障を来さないよう市道、歩道を合わせて640キロメートルを除雪しています。今後も適正な除雪計画を策定し、年次計画で除雪機械の導入を図るなど、市民の交通、生活機能の確保に努めます。

自然環境に恵まれた本市は、大切な自然を損なうことがないよう環境衛生の維持、保全に努めます。地域でごみの減量化に取り組み、資源ごみ回収への援助や、公衆衛生活動への

連携によって築く、躍進する産業のまちづくり

八幡平の国立公園指定50周年

食料の安定供給と経営所得安定対策大綱の基本理念を踏まえ、本市の基幹産業である農業の健全な発展を見据えて施策を展開します。水田農業については、19年度から品目横断的経営安定対策、米政策改革推進対策、農地・水・環境保全対策が導入さ

支援による環境美化の推進に努め、市民一人一人の環境に対する意識高揚を図っていきます。

地球温暖化が環境に深刻な影響を及ぼすことから「地球温暖化対策推進実行計画」を策定し、計画に沿って地球温暖化防止に取り組みます。

し尿処理、清掃業務、斎場の運営や管理は、多様化する生活ニーズに対応した適正な施設運営を行い、快適で便利な生活を支援します。

交通安全対策については、高齢者が交通事故の被害者になる傾向があり、高齢者に対する交通安全施策を重点に推進します。また、交流人口が増加する中、犯罪を未然に防止するため、警察、関係機関と連携を図り、市民総ぐるみで犯罪防止に努めます。

消防、防災対策は、八幡平消防署を核とした、防災対策の充実が必要です。旧3町村の防災計画を見直し、消防団と協力の下、安全なまちづくりを推進します。

れることとなります。国の重要な政策転換に速やかに対応するため、新年度から「八幡平市農業振興支援センター」を発足させ、ホウレンソウ、リンドウの作付け推進と合わせ地域営農の推進を図る考えです。
主要作物の米は、食が多様化する



良質米の生産振興に取り組み、実り豊かな「農の大地」へ

中、消費の低迷で過剰生産傾向にあります。従来にも増して良質米が求められ、消費者、市場ニーズを的確にとらえて生産振興に取り組まなければならない。

園芸振興は、ホウレンソウの生産振興、面積拡大、促成アスパラガスの生産振興など、若手農業担い手支援総合対策事業を活用しながらの対応を考えています。リンドウは日本一のブランドです。長期安定出荷の確立や生産所得拡大に向け、生産者と関係機関が一体となり取り組む考えです。雪を活用した「雪冷房」リンドウ培養育苗生産施設整備事業を取り入れて研究したいと思っています。畜産振興については、市場価格の好調さから販売価格は上昇していま

すが、上場頭数の減少で退潮傾向がみられます。後継者対策や経営規模拡大にも取り組まなければならない状況です。生乳、ブローラーも、安全・安心な生産物の供給基地として、生産振興を図っていく考えです。

林業振興については、適正な森林管理を図るとともに、木材需要の拡大に向けて特用林産物の振興も含めて推進したいと思っています。また、引き続き林道の整備に取り組みます。地産地消の推進については、安全・



十和田国立公園編入50周年を迎える八幡平。市を全国にPRする絶好のチャンス

安心な地元食材を地域内で消費拡大し、市場への出荷と併せて市内に産直組合や宿泊施設など多くの観光施設があることから、観光協会との連携を深めながら、地元農産物の供給システムの構築を図っていきます。

県営工事の「浅沢地区県営中山間地域総合整備事業」は、工事を続行していきます。

18年度は、十和田八幡平国立公園・八幡平地域の指定50周年を迎えます。八幡平市を全国に発信する絶好のチャンスであり、50周年を契機に八幡平のPRに努めていきます。岩手山、八幡平、安比高原、七時雨山をエリアとした観光振興計画を策定し、観光と特産品の普及拡大を一体的に推進します。

豊かな観光資源と農業を結び付けた、健康・癒し型滞在観光を関係機関の連携による新たな取り組みとします。八幡平市観光協会の強化の下、観光ニーズにあつた各種イベントなどの推進を図り、観光誘客数の拡大に努めていきます。

商業振興対策は、八幡平市商工会の経営改善事業、振興対策事業などに対し、補助金を交付し支援を行います。引き続き商工団体が行う各地域の特性を生かした活性化対策としてのイベント開催を支援していきます。「中小企業振興資金融資制度」利子、保証料補給の限度額を引き上げて実施し、中小企業の振興育成を積極的に支援します。

高齢者福祉は、介護保険制度の改正で、新年度から八幡平市地域包括支援センターを設置します。このセンターを拠点に見守りネットワークの組織づくりも進めていきます。

西根病院、安代・田山両診療所については、医療費制度改革が断行される中、自治体病院を取り巻く環境は、ますます厳しくなっています。医師の確保も大学病院の医師引き揚げや地域偏在が恒常化しており、医師確保が重要な課題となっています。このような中、新年度も引き続き医療関係機関、岩手医科大学に対して医師の派遣要請を積極的に行います。また、医療機器の充実や業務の効率化を推進し、健全経営に努めます。

学校教育は、児童・生徒が心豊かに成長することができる学校教育を目指して、学力向上を念頭に置き、学力調査に基づく確かな学力の把握や、教職員の授業力の向上を図るため、各種研修への積極的な参加を進めていきます。複式学級への支援、障害がある児童への的確な支援体制の構築や、中学校のスクールカウンセラーなど専門職員を配置し、相談活動で不安解消を図り健全育成に努めます。児童生徒の登下校の安全確保を図るため「学校安全体制整備推進事業」を導入し、地域ぐるみでの不審者対策や交通安全の確保に取り組みます。西根中学校の屋内運動場の建設を実施し、教育環境の整備を図ります。生涯学習と社会教育の振興につい



西根ミュージカルで生き生きと踊る子どもたち

ては、学びの場や人づくりの拠点となる生涯学習センター、公民館の整備充実を図り、図書館機能の強化による学習環境の整備を進めます。公民館は、各地区の生涯学習の中心として位置付けており、地域間交流や新しい知識の習得のため各種事業を推進し、地域ボランティアの育成に努めます。

スポーツレクリエーションの振興は、各種大会などを開催し、体育協会と連携を図りながら、若者から高齢者まで楽しむことができるスポーツの環境づくりに努めていきます。

地域に伝わるさまざまな芸術・文化を市民が主体となって継承するため、地域芸能祭や郷土芸能祭を関係団体と共同で開催するほか、八幡平市芸術文化協会の発足に伴い、芸術文化活動を支援します。

文化財は、博物館や資料館の有効活用を図りながら、文化財・地域遺産

工業振興は、新たに「企業立地促進事業費補助金制度」を創設し、積極的に企業誘致に努めます。起業家に対しては貸工場への入居などの支援をします。

健やかな、創造性あふれる人材のまちづくり

市の基本とする市民の健康づくりについては、市民が明るく安心して老後を迎えるため、市民一人一人が健康の維持、増進に努め、健康寿命が延伸できるよう、一次予防や介護予防に重点を置きます。検診事業、生活習慣病予防事業、母子保健事業など関係機関・団体と協力しながら保健施策の充実を図っていきます。

子育て支援対策は、仕事と子育ての両立支援対策として、延長保育、一時保育、乳児保育など地域に合わせ



世代間交流を深め、子どもたちの豊かな心をはぐくみます

を適切に保全・保護します。

産業、福祉、スポーツ、芸術文化などの中核となる人材育成、青少年育成のため、研修事業に参加する経費などの助成を引き続き実施します。

行政の効率化は、財政の健全化に直結するものであり、事務事業・組織機能を定期的に見直し、職員数、職員の資質の向上など職員管理の適正化に努めます。自主財源の確保や有利な財政措置の活用にも努め、健全な財政運営のため、限られた予算の効果的、重点的な運用に努めます。

行政改革の推進は、国の新地方行政改革に基づく、行政改革大綱や行政改革実施計画を策定し、全庁一丸となって行政改革に取り組みます。

開かれたまちづくりの推進については、市民と行政が一体となって築く協働社会の実現のため、学区単位、旧地区単位で構成する「地域自治組織」の育成支援に努めます。地域コミュニティの形成を図り、地域の特性を生かした地域活動の実現のために実施する事業に「地域振興基金」を創設、活用して支援していきます。

協働のまちづくりへ全力

以上、18年度市政運営の基本的な方針と主要な施策について申し述べました。

「市民の目線での思考と対話」の下に、行政サービスに対する市民の皆さまの評価に値する行政運営と行政

市の第三セクターについては、経営の内容分析を行い、適正な経営に向けて見直しを進め、それぞれの人的配置も含め、健全経営化のために改善を進めます。

大更と平笠に学童保育を開設

多様なサービスが必要であり、保育体制の充実を地域と一体となつて取り組みます。老朽化した保育環境の改善を図るため、畑児童館をあしる保育所の分園として整備します。

新年度、新たに大更小学校と平笠小学校の両区に学童保育クラブを設置し、適正な遊び場を提供し、児童の健全育成を図ります。

児童虐待を防止するため、新たに関係機関・団体によるネットワークを構築し、早期発見など虐待防止に努めます。

障害者福祉は、新年度から、障害者自立支援法の施行で、身体障害・知的障害・精神障害の種別にかかわらず、どのサービスも利用でき、利用者負担も1割負担となります。自立支援のため、日常生活用具給付や住宅改修の事業が引き続き実施されるほか、障害者小規模通所授産施設の運営を支援します。



西根地区市民センターで開催された平成18年市議会第1回定例会

の質の向上を基本姿勢として堅持し、市民の皆さまとの懇談、そして議会と協調を大切に市政運営に心掛けていく所存です。

新年度は、わたしたちにとって、まさに新しい時代の一步を踏み出す記念すべき年です。

市民の皆さまの旺盛な郷土愛とまちづくりへの気概、知恵、行政の力を合わせ、協働と躍進を基本として「農と輝の大地 八幡平市」の実現に向け、熱い心と固い信念を持って着実に取り組む所存です。

新市建設は日々仰ぐ山並みのごとく、決して平坦な道ではありませんが、さまざまな困難を乗り越えることにより、わたしたちにとって素晴らしい未来が開けるものと確信し、施政方針とします。